

ナシ黒星病情報第1号

平成30年10月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナシ黒星病の伝染源量を減らすため、落葉を処分しましょう！

1 発生状況

9月下旬に行った巡回調査（32ほ場調査）では、平年並の発生量でしたが、一部で多発しているほ場がありました。名古屋地方気象台9月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の降水量は多いと予想されているため、今後発生量が増加し、次作への越冬伝染源量が多くなる可能性があります。

2 ナシ黒星病菌の生態

- (1) 秋型病斑（図）の本病原菌は、落葉中でも生存できます。落葉中で越冬後、子のう胞子を形成し、風雨により翌春の新葉に到達し感染します。これが最も重要な第一次伝染源です。
- (2) また、落葉するまでの間に、雨水とともに発病部から芽基部に分生胞子が到達し、りん片に感染します。りん片内でそのまま越冬し、これが翌春のりん片発病芽となります。これも第一次伝染源の一つとなります。10～11月は本病原菌の感染適温（15～21℃）の時間が長く、また、ナシの花芽内部が肥大し、りん片組織が露出するため、感染しやすい時期にあたります。

3 防除対策

- (1) 秋型病斑を形成した発病葉や秋に二次伸長した枝の葉に発生した春型病斑は、見つけ次第除去しましょう。
- (2) 落葉は集めてほ場外に持ち出したり、粉碎、すき込み等を実施して、本病原菌の越冬源をなくしましょう。
- (3) 分生胞子がりん片に感染するのを防ぐため、表を参考に10月中旬～11月上旬頃にかけて薬剤を2～3回散布しましょう。
- (4) 落葉後のせん定は早めに行い、翌春、菌が活動し始める前（2月中下旬頃）までに終わらせましょう。

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤



図 黒星病の秋型病斑
(葉裏の黒いしみ状の病斑)

薬剤名	使用時期	系統	FRAC コード
ICボルドー48Q	収穫後～開花前	無機銅	M1
オーソサイド水和剤80	収穫3日前まで	有機塩素	M4
オキシラン水和剤	収穫3日前まで	有機塩素、有機銅	M4、M1
オキシンドー水和剤80	収穫3日前まで	有機銅	M1

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRAC コードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf を御覧ください。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。